



S J-i G s

Sustainable Junsai-ike Goals

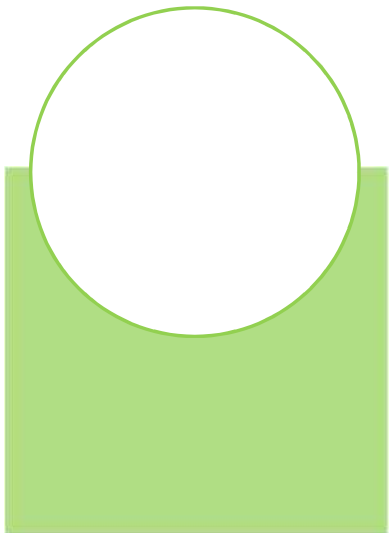
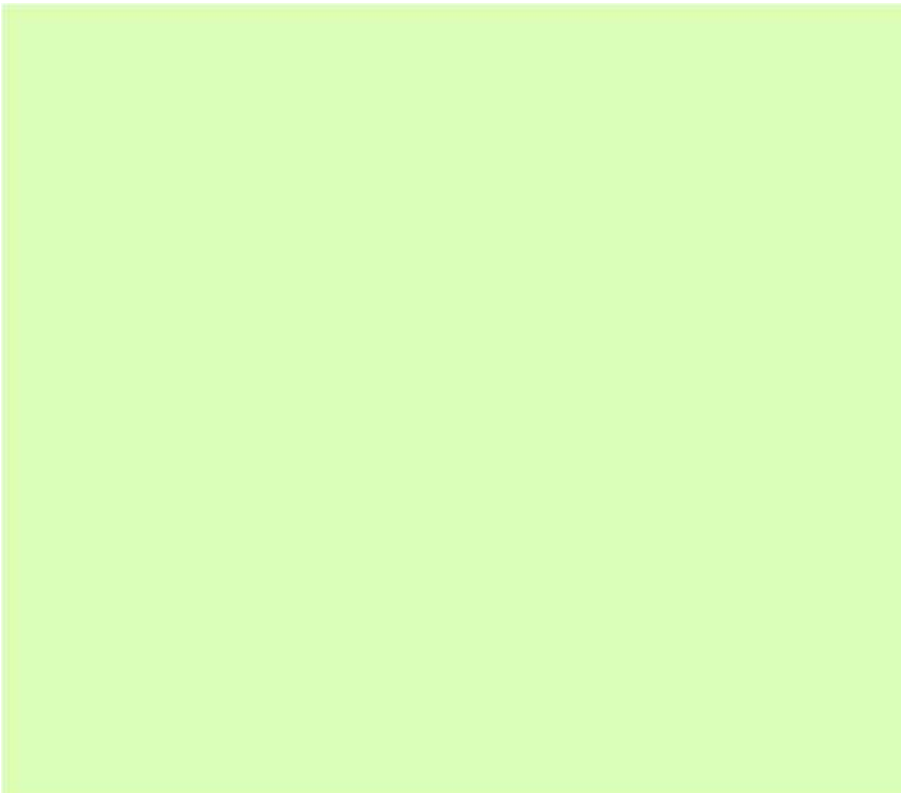
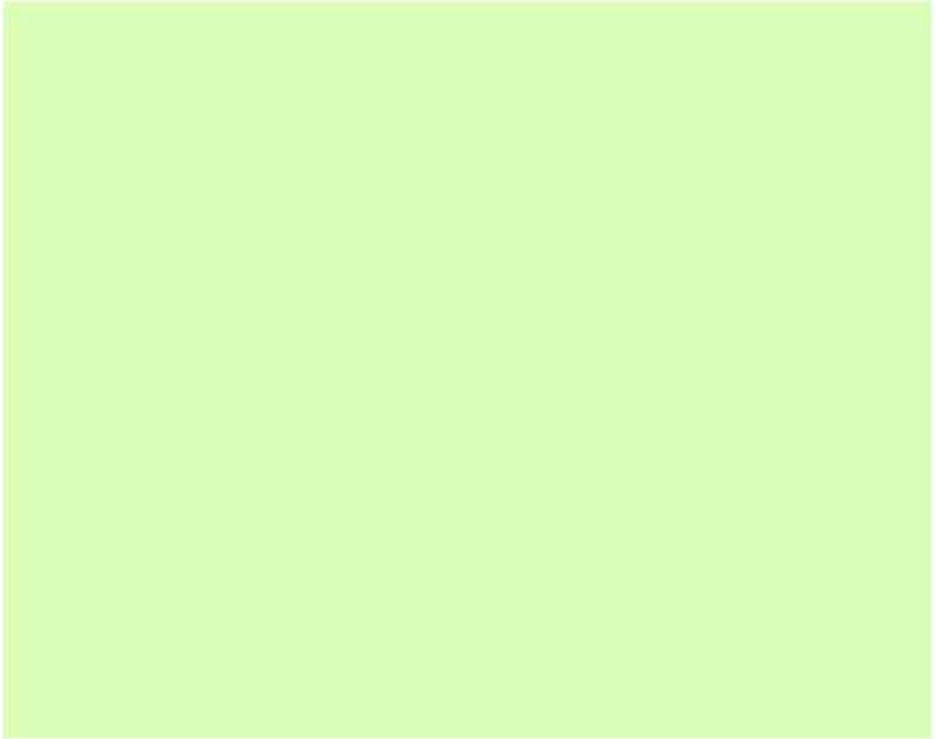
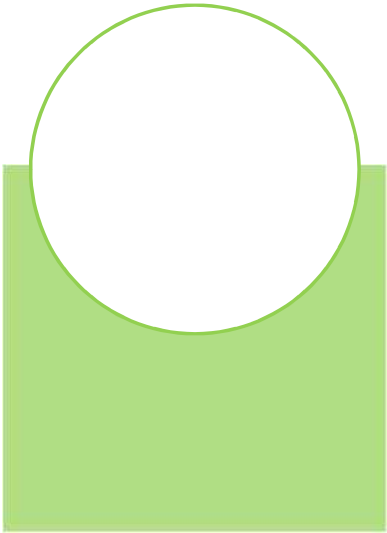
じゅんさい池みらいプラン

素案

**令和4年2月
新潟市東区役所**



message





目次

01 プランの策定について	・・・P1
02 じゅんさい池の価値・課題	・・・P4
03 基本的な考え方	・・・P6
04 取り組みの方向性	・・・P9
05 プランの実施体制	・・・P14
06 園芸スイレン対策に関する検討	・・・P17
巻末資料	・・・P18

01 プランの策定について

このままでいいの!?

～じゅんさい池みらいプロジェクトのはじまり～

じゅんさい池は、東区物見山地区にある二つの池（東池・西池）とそれを取り囲む松林からなる自然豊かな空間です。

二つの池は、物見山砂丘に風が吹き付けることで形成された“砂丘湖”という珍しい成り立ちをもち、周辺が宅地化

していく中であって池の周囲には砂丘地形の痕跡が残っています。また、様々な植物や生きものが生育・生息しており、市街地の中の貴重な緑地環境です。

周辺の宅地開発などの影響で池の水が枯渇し、昭和54年にはジュンサイが全滅してしまうという過去もありましたが、その後、じゅんさい池公園として整備する中で、工業用水を導水し、旧笹神村（阿賀野市）からジュンサイを移植するなど環境整備に取り組み、現在の姿になりました。

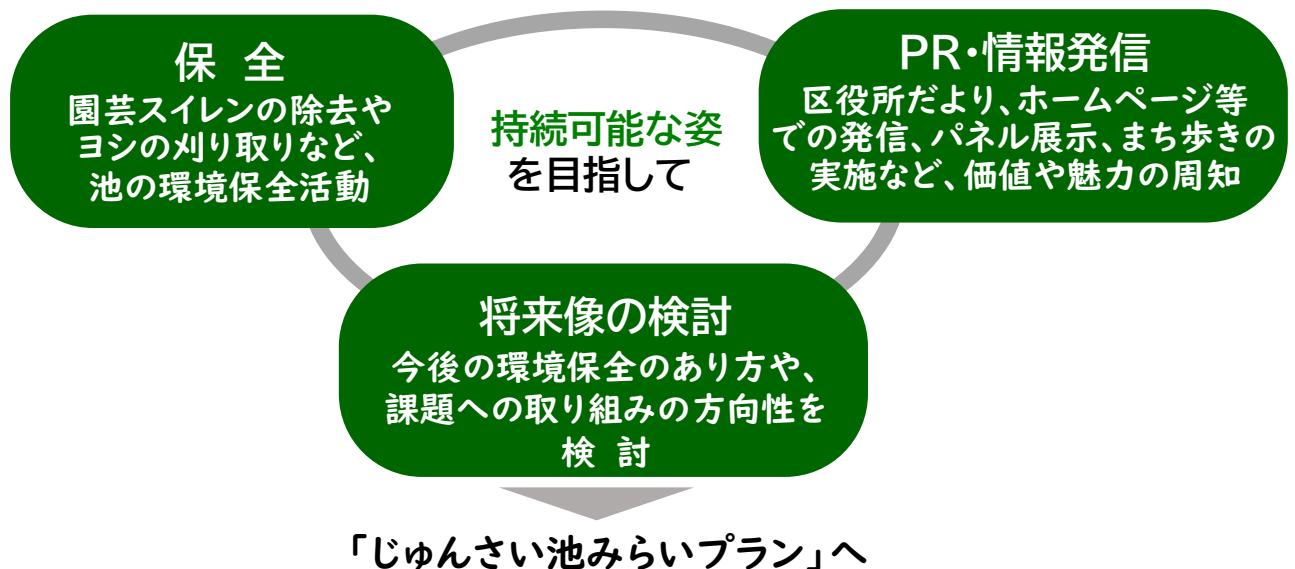
じゅんさい池は、散策や自然観察など、様々な目的で利用され、憩いの水辺空間として多くの人に親しまれています。一方で、池にはミシシippアカミガメなどの外来生物の繁殖や、外来植物である園芸スイレンの繁茂、湖底の堆積物など環境保全に関わる課題が顕在化してきました。

このような状況に危機感をもった地域の人々を中心に、環境保全活動が始まりました。さらに、東区自治協議会提案事業でも池の環境保全活動に取り組むとともにワークショップやセミナーなどを開催し、区民の皆さんとともに、池への思いや関わり方を話し合ってきました。

その中では、「ジュンサイが生育できる環境を子どもたちへ残す」、「つないでいく視点」、「“地域の宝”、“誇り”を子どもたちへ」、「長い目で活動」などのキーワードが導き出されました。これらの意見を踏まえ、令和2年度に「未来につなぐ じゅんさい池」をテーマとした、東区特色ある区づくり事業「じゅんさい池みらいプロジェクト」が始まりました。



守る・伝える・考える ～じゅんさい池みらいプロジェクトの取り組み～



東区特色ある区づくり事業「じゅんさい池みらいプロジェクト」では、“じゅんさい池を未来につなぐ”ためのきっかけづくりとして、主に上記の3本柱での取り組みを実施してきました。

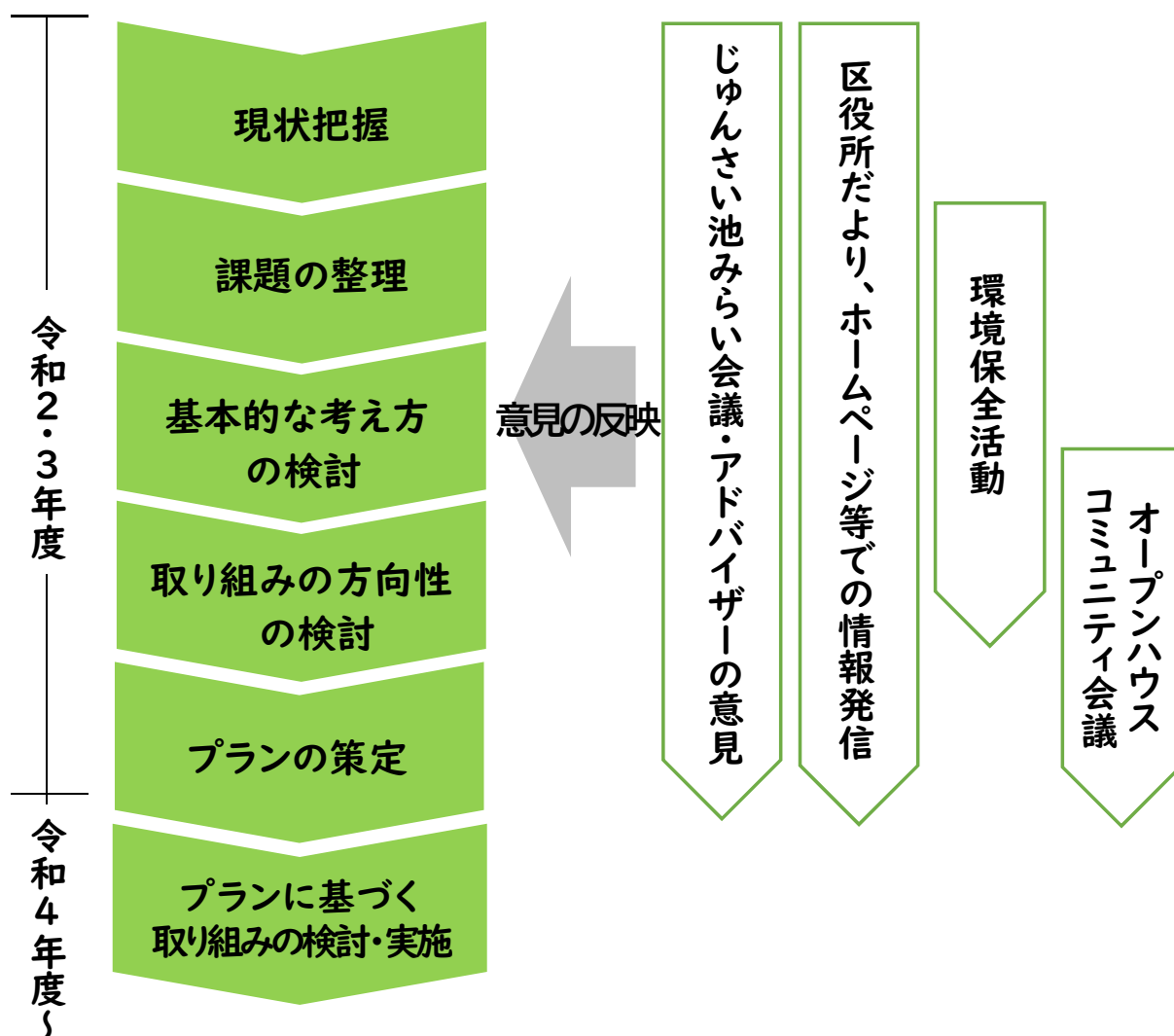
環境保全活動を地域と協働で継続しつつ、機運醸成のためのPR・情報発信に努めるとともに、「じゅんさい池みらい会議」やオープンハウス等を通じて意見を聞きながら、じゅんさい池の今後のあり方や取り組みの方向性を検討してきました。

このプロジェクトでの取り組みを通して得られた環境保全活動の経験や、区民の皆さんからのご意見等を踏まえ、以下のことを目的に「じゅんさい池みらいプラン」（以下「プラン」という。）を策定しました。

- ① じゅんさい池の価値や魅力のほか、課題をわかりやすく示すこと
- ② じゅんさい池を未来につなぐための基本的な考え方や取り組みの方向性を、市民（区民）の皆さんと共有すること
- ③ プランに基づき、取り組みを検討または実施していくこと

01 プランの策定について

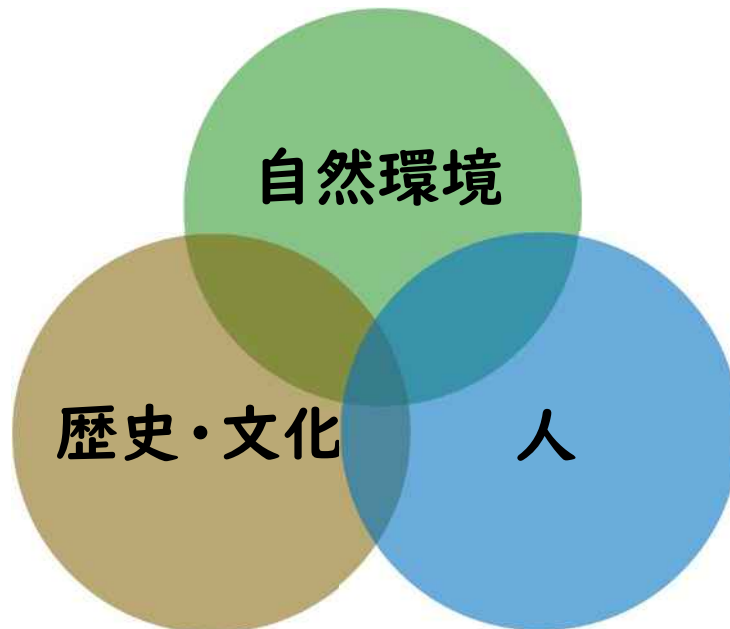
色々な意見を取り入れて ～プラン策定のステップ～



令和2、3年度の2年間で、地域やまちづくりの関係者から成る「じゅんさい池みらい会議」(計7回開催)やアドバイザーの意見を聞きながら検討を進めました。

また、区役所だよりや市ホームページ等による情報発信のほか、パネル展示会を活用したオープンハウスやインターネットでの意見募集、地域でのコミュニティ会議等を通じて区民の皆さんの意見を求め、プランに反映しています。

ここにしかない 守られてきたもの ～じゅんさい池の価値～



公園の周囲が宅地化した中で、砂丘湖である2つの池とそれを取り囲むアカマツを中心とした様々な樹木や植物、野鳥をはじめとした多様な生きものが生育・生息する、じゅんさい池固有の自然環境が残されています。

かつては、ジュンサイの採取や湯治宿、スキー場があったことなど、じゅんさい池は人々の暮らしと長く関わってきました。また、信仰の場であるとともに、伝説・伝承が残るなど、地域の歴史・文化を伝える場でもあります。

公園を憩いの場として親しむ利用者はもちろん、保全や整備活動、交流活動を担う地域の人々によって支えられています。

このように、じゅんさい池にはここにしかない価値があります。また、これらは地域の人々によって守られてきたものでもあります。

これまでつながれてきた価値を、私たちは子どもたちが大人になる次世代につないでいく必要があるのではないのでしょうか。

バトンをつなげるのか・・・!?

～じゅんさい池の主な課題～

外来生物や飼育鯉の
放流、外来植物による
他の生きもの・植物
への影響

園芸スイレン繁茂による
景観・水環境の悪化、
他植物への影響

環境保全活動や交流
活動に携わる人の不足
(地域の担い手の高齢化)

じゅんさい池への
関心が薄い、機運が低い

じゅんさい池の価値や
魅力が知られていない

“危ない”
“気味が悪い”
というイメージ

シダレザクラの生育、
ホタルの人工飼育
継続が困難

価値や魅力がある一方で、“未来につなぐ”ために解決しなければならない課題もあります。

自然環境・景観保全に関するもの、活動を担う人材や体制に関するもの、「つないでいこう」という機運醸成に関するもの、魅力づくりや利活用に関するものなど多岐にわたり、一時的な対策では解決しないものも多く、持続可能な方法で取り組んでいくことが求められます。

03 基本的な考え方

キーコンセプト “未来につなぐ じゅんさい池”



前述のような課題が解決されなければ、いずれじゅんさい池はその価値や魅力を失ってしまいます。その価値や魅力を子どもたちが大人になる次世代につなぐため、私たちは“未来につなぐじゅんさい池”をキーコンセプトに、次のような姿を目指します。



【目指す姿】

池の水環境と周囲の自然環境を活かし、
自然とのふれあいや学習ができる場であるとともに、
地域の人々が愛着をもってかかわり憩える場

自然環境を守るとともに、それを活かした自然とのふれあいや、環境や歴史・文化などの学習ができる場として利活用を図っていくことで、地域の人々にとって、身近で心安らぐ場、心惹かれる場であることを目指します。

価値や魅力というプラスの面だけでなく、マイナス面についても学びの視点から伝えることで、地域の人々、とりわけ若い世代や子どもたちが考え、自発的に行動するきっかけになれば、息の長い活動と愛着の醸成につながるのではないのでしょうか。

この目指す姿は、簡単に実現するものではありません。地域、行政だけでなく、多くの人に関心をもって参画し、連携しながら取り組んでいく必要があります。

03 基本的な考え方

S J-iGs

Sustainable Junsai-ike Goals (持続可能なじゅんさい池の目標)

じゅんさい池を未来につなぐための活動目標を設定します。これは、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)とも共通する考え方と言えるため、じゅんさい池を切り口とした活動目標として、“SJ-iGs 持続可能なじゅんさい池の目標”を掲げます。

SJ-iGsは、SDGsと同様に2030年までの達成を目指します。




SJ-iGs達成のため、この3つの視点で取り組み方針を考えます。



03 基本的な考え方

課題・SJ-iGs・視点 の整理

課題	SJ-iGs	関連するSDGs	取り組みの視点
<p>外来生物や飼育鯉の放流、 外来植物による他の 生きもの・植物への影響</p> <p>園芸スイレン繁茂による 景観・水環境の悪化、 他植物への影響</p>	池と周囲の 自然環境を 守ろう	  	<p>保全</p> <p>PR 普及・啓発</p>
<p>環境保全活動や交流 活動に携わる人の不足 (地域の担い手の高齢化)</p>	保全や交流 活動にかか わる人を増 やそう		<p>保全</p> <p>PR 普及・啓発</p> <p>利活用</p>
<p>じゅんさい池への 関心が薄い、機運が低い</p> <p>じゅんさい池の価値や 魅力が知られていない</p> <p>“危ない”、“気味が悪い” というイメージ</p>	<p>地域の人 の愛着を 育てよう</p> <p>じゅんさ い池の価 値を学び 広めよう</p>	 	<p>PR 普及・啓発</p> <p>利活用</p>
<p>シダレザクラの生育、 ホタルの人工飼育 継続が困難</p>	全身で親し める空間に しよう		<p>利活用</p>

04 取り組みの方向性

持続可能な解決方法を・・・ ～取り組みの検討にあたって～

まず解決すべき課題は、「環境保全活動や交流活動に携わる人の不足」です。これまでの方法・体制では、いずれ活動の限界を迎えます。SJ-iGs達成のための活動を持続可能な方法・体制で進めていくには、以下の視点を踏まえた取り組みの検討が必要です。

人材、資金、ノウハウの有効活用

新たな人材、資金、ノウハウの掘り起こし

優先度の高い取り組みの選択

市民（区民）の共感と賛同

これまでの活動で培ったノウハウやつながりを有効に活用するほか、新たな担い手の育成や継承、資金の調達も課題のひとつです。限られた条件の中では、優先順位をつけて、実現可能かつ持続可能なあり方を選択することも必要です。そのためには、広く機運が高まり、共感と賛同が得られる取り組みであることが求められます。

高齢化、人口減少に直面する地域及び行政においては、これらの視点を踏まえた取り組みでなければ、継続は困難と考えられ、じゅんさい池を未来につなぐための活動目標の達成は難しくなります。

04 取り組みの方向性

池と周囲の 自然環境を 守ろう

<この目標について>

じゅんさい池の価値の屋台骨ともいえるのが、周辺の宅地開発の中にあっても残されてきた自然環境です。

「じゅんさい池を未来につなぐ」ためには、まず、水をたたえた池と周囲の環境を守っていくことが基礎となるといえます。経費面、技術面、人的資源の面でも課題はありますが、持続可能な方法で環境保全活動を展開しながら、じゅんさい池の貴重な自然環境について、多くの方が理解を深める必要があります。

<取り組みの方向性>

- 西池は、自然環境保全のため、優先的に環境保全活動を実施
- 東池は、池の水環境が悪化しないよう状況を観察
- 園芸スイレンの繁殖を抑える方策や湖底の堆積物等について、技術面・経費面の研究・検討
- 自然環境保全や公園利用のマナー等に関する情報発信と啓発

前述のように、限られた経費や人で取り組みを進めるには、優先順位をつけて可能なところから実施していかなくてはなりません。

ジュンサイをはじめ、希少な水生植物が生育しており、これまでの除去活動により、園芸スイレンの広がりが一定の範囲にとどまる西池から優先して今後の環境保全活動を行っていくこととします。

一方、東池では、一面に園芸スイレンが繁茂しており、簡単に除去することは困難なため、状況を観察しながら、適切な対応策について研究と検討を行っていきます。

また、目の前の環境保全活動の実施だけでなく、外来種の影響や自然との関わりなどについて多くの方が理解を深め、考えるきっかけとなるような普及啓発に取り組みます。

04 取り組みの方向性

保全や交流 活動にかか わる人を増 やそう

<この目標について>

これまで、地元の地域コミュニティ協議会が中心となり環境保全活動や交流活動を行ってきましたが、担い手の高齢化や固定化が課題となっており、若い世代も含めたより多くの人々が参画できる活動や、活動を継続的に運営していく体制づくりと後継者の育成が求められます。

また、公園の環境保全活動や整備活動に携わる団体は、各々の目的に沿って活動していますが、ゆるやかな連携を図ることで、より効率的かつ効果的な活動が期待できます。

<取り組みの方向性>

- 関係団体間のネットワークづくりと、持続的な池の環境保全活動等の運営を担う体制の構築（公園保全活動を担う団体間（地域コミュニティ協議会、公園愛護会など）の連携）
- 池の保全活動等に継続的に関わる人や団体の掘り起こしと、後継者（担い手）の育成

持続的な環境保全活動のためには、活動をコーディネートし運営する者や、幅広い参加者が必要です。新たな運営体制の構築を目指し、まずは、じゅんさい池に関係する人や団体がお互いを知り、できる範囲での連携を試みるなど、ネットワークづくりを始めます。

また、幅広い世代や、企業・団体など多様な主体の参画を求めるための取り組みを行います。今まで培ったノウハウやつながりを継承していくことも意識しながら、ボランティア募集の仕方を工夫したり、ハードルの低い参加しやすい活動にするなど、“広く・ゆるく”関わられるような仕組みを目指します。

04 取り組みの方向性

地域の人の
愛着を育て
よう

じゅんさい
池の価値を
学び 広め
よう

全身で親し
める空間に
しよう

<この目標について>

じゅんさい池は、散策や野鳥の観察、自然の中でのリフレッシュなど、様々な目的で利用されており、公園愛護会や地域による環境保全活動など、多くの人に関わり、守られています。かつてはジュンサイの採取や湯治宿など、暮らしに密着した利用がされていたほか、現在も東池・西池各々に神社があり、信仰の場にもなっています。

多くの人に親しまれている一方で、東区内でも「行ったことがない」、「どこにあるの?」などの声もあり、まだまだ関心が高い状況とは言えません。また、樹林に囲まれた池をもつ環境は、“危ない”“こわい”というイメージをもつ方もいるようです。

現在のじゅんさい池は、過去から守られてきた価値や魅力といったプラス面だけでなく、多岐にわたる課題を抱えています。価値や魅力に加え、それらの課題も含めて、地元をはじめ、広く市民の皆さんからじゅんさい池を知り、関心をもってもらうことが必要です。

じゅんさい池への愛着は、すべての活動の原動力といえます。一人でも多くの人に好きになってもらい、自分の庭のように親しみ、手入れをしたいと思うような働きかけが求められます。とりわけ、次世代を担う子どもたちや若い世代に対して、全身で自然環境などを感じられる取り組みを通じた発信が重要と言えます。

<取り組みの方向性>

- じゅんさい池の価値や魅力、課題の周知・啓発
特に、子どもたちに対して分かりやすく伝える工夫
- フィールドワーク、まち歩き、多くの人に参加できる池の環境保全活動など、じゅんさい池を体感できる取り組み
特に、子どもや若い世代をターゲットとした取り組みの強化

04 取り組みの方向性

じゅんさい池と言えば シダレザクラ!ホタル!でしたが・・

東池の高台にあるシダレザクラ、ホタルの里で飛び交うホタルは、じゅんさい池公園の魅力づくりとして長年取り組まれてきたもので、じゅんさい池と言えば“シダレザクラ”“ホタル”と言う声が多く聞かれます。

現在のシダレザクラは平成元年に京都円山公園の祇園しだれの血筋を引くものとして植樹されたものですが、近年、2本の木が弱ってきており、樹木医の診察や施肥等を施しているものの、回復の様子がない状況です。

また、昭和63年の「ホタルの里」整備をきっかけとして、ホタルの自生を目指した取り組みを行ってきましたが、近郊でのエサの確保や飼育を担う人材の確保が難しく、今後もこれまで通りに継続していくことが困難となっています。

長い間、じゅんさい池の魅力のひとつとして広く親しまれてきましたが、これらの継続が難しくなった現在、今後の魅力づくりのあり方を考える岐路にきています。

<取り組みの方向性>

- じゅんさい池の価値や魅力、課題を広く周知・啓発し、今後の魅力づくりや利活用を地域とともに検討

シダレザクラやホタルだけでなく、じゅんさい池には、地形や緑地環境などの「自然環境」、これまで培われてきた「歴史・文化」、また、それらを守ってきた「人」という、ここにしかない価値があります。

これらの価値を活かした魅力づくりを、地域とともに考え、発信していく必要があります。

05 プランの実施体制

取り組みの主体と役割

SJ-iGs達成のための取り組みは、以下の主体が行うことを基本としますが、それぞれが協働して進める必要があります。各々が連携して具体的な実施計画や進め方を検討したり、情報を共有するほか、定期的に取り組み状況と目標までの進捗状況を点検する必要があります。

○: 中心となる実施主体 △: サポートする主体

取り組み	実施主体				
	地域・ 新たな 団体	行政 (区・公民館)	市民 (区民)	学校	その他
西池の環境保全活動	○	△	△		企業・団体
東池の状況観察	△	○			
園芸スイレン抑制や 堆積物対策の研究	○	△			企業・団体 有識者
自然環境保全や公園利用マナー 等の啓発	△	○	△	○	
環境保全活動等のネットワー クづくり、運営体制の構築	△	○	△	△	企業・団体 有識者
関わる人や団体の掘り起こ しと後継者の育成	○	△	△		企業・団体
価値・魅力・課題の 周知、啓発	△	○		△	有識者
じゅんさい池を体感できる 取り組み	○	○	△	○	有識者
今後の魅力づくりや 利活用の検討	○	○	△	△	企業・団体 有識者

05 プランの実施体制

私たちにフィットするあり方は？ ～活動の運営体制を考える～

今後の持続的な環境保全活動等を担う体制の構築を目指すためには、現在の活動を引き継ぎつつ、他の団体による活動事例等を参考に、関係団体間で協議し、じゅんさい池に合ったものを作っていく必要があります。

<事例1 市民団体による活動 佐潟>

西区の佐潟で活動する「佐潟と歩む赤塚の会」は、地域住民が中心となり組織した市民団体です。

年間を通じて、自然観察会や潟舟体験など、潟への親しみを醸成する活動を行っています。会員は、ボランティアで観察会のガイドや催しの運営に当たります。また、企画の内容に応じて、佐潟水鳥・湿地センターや公民館などと連携して取り組んでいます。

昔は村をあげて行っていた、潟のドロなどを上げる「潟普請」を、現代版の清掃活動として継続しており、この催しの際には、「歩む会」が中心となり実行委員会を立ち上げ、地元の中학생や地域関係者も関わって実施しています。

佐潟の水質悪化は喫緊の課題となっており、下潟ではハスの衰退も目立つ状況のため、地元小学校とハス復活プロジェクトに取り組んでいます。



<事例2 実行委員会による活動 鳥屋野潟>

中央区の鳥屋野潟では、「とやの物語実行委員会」が、中央区特色ある区づくり事業として鳥屋野潟環境啓発事業「とやの物語」を実施しています。同実行委員会では、新潟市南商工振興会、地元コミュニティ協議会、鳥屋野潟漁協、亀田郷土地改良区など多様な主体と新潟市が協働して取り組みを行っています。

鳥屋野潟の認知度と環境意識を高めるため、学校と連携した出前講座や、パネル展の開催などを通じ、子どもたちへの環境啓発を積極的に実施しています。

実行委員会では、熱心な議論が交わされ、実行に至るまでのフットワークの軽さも特長です。



05 プランの実施体制

<事例3 NPO法人等による活動 十二潟>

北区の十二潟では、NPO法人「いころこ十二潟を守る会」が環境保全活動や環境教育活動を担っています。

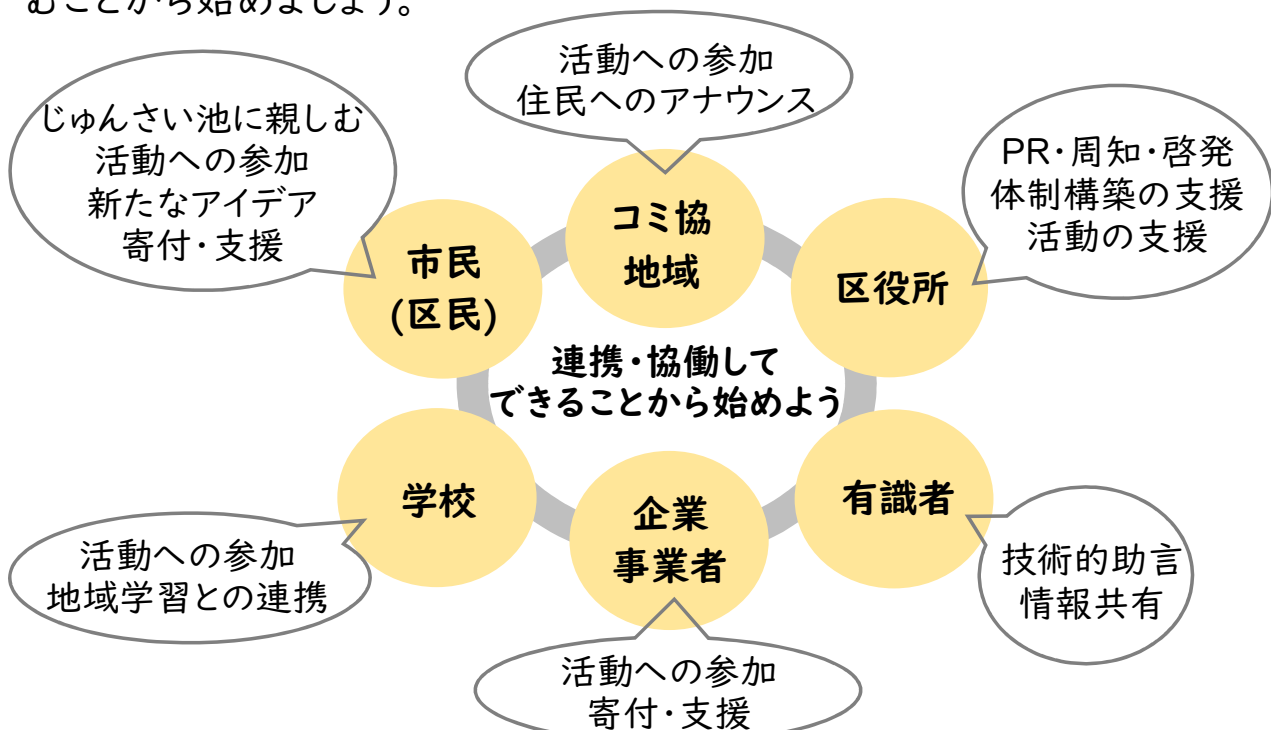
地元の岡方地区コミュニティ委員会が中心となり、一斉清掃や自然観察会などを継続してきましたが、さらなる取り組みの充実を図るため、2017年にNPO法人を設立し、十二潟の用地の一部も取得しました。

地元小学校と協働した取り組みを軸に、地域住民や行政とも連携し、PRや情報発信を強化していくこととしています。公益財団法人などの助成金を活用するなど、積極的に活動資金の調達にも動いています。



環境保全活動等を担う体制の構築を目指しますが、中心となって活動する人々だけの取り組みでは、SJ-iGs達成、延いては、じゅんさい池を未来へつなぐことはできません。

公園を利用する一人ひとり、また、地域に暮らす一人ひとりにも役割があるのではないのでしょうか。自分にできることを考えること、じゅんさい池に親しむことから始めましょう。



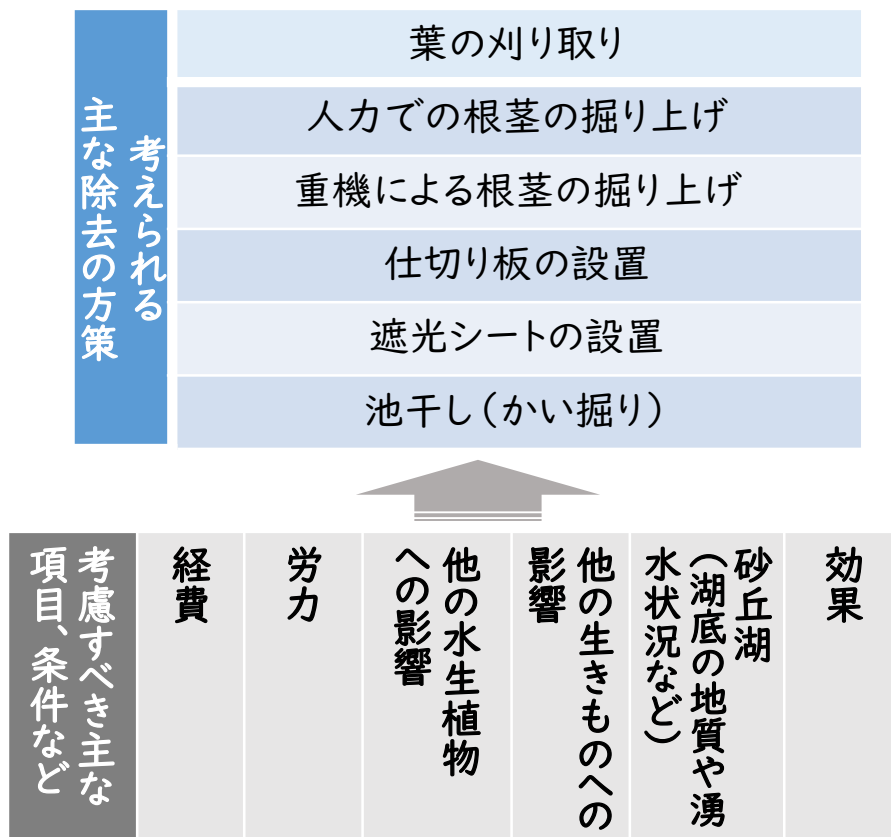
06 園芸スイレン対策に関する検討

いろいろな条件を評価して ～園芸スイレン除去の方策～

園芸スイレンはきれいな花が咲き、それを楽しむこともできますが、在来の水生植物より生活力が強いため増えすぎてしまい、葉が水面を覆って光を遮り、他の水生植物を淘汰してしまいます。また、葉や茎が枯れて湖底に堆積しヘドロ化することで、水質を悪化させるおそれがあります。

SJ-iGsの「池と周囲の自然環境を守ろう」を達成するためには、園芸スイレン対策は避けて通れない課題のひとつです。

特に、東池は一面に繁茂し、小規模な刈り取り等では追いつかない程に広がっています。刈り取りや繁殖を抑えるための方策、水中でヘドロ化した葉茎への対策にあたっては、他地域での事例などの情報を収集検討の参考とするほか、経費やマンパワー、環境への影響などについても評価し、どの方策が適切かつ実現可能なのかを研究して選択する必要があります。



巻末資料

【じゅんさい池みらい会議委員及びアドバイザー名簿】

令和4年2月時点（敬称略 五十音順）

	氏名	所属等
じゅんさい池みらい会議 委員	大坂 真弓	東山の下小学校 教諭
	五十嵐 初司	東山の下地区コミュニティ協議会 事務局長
	佐藤 安男	水の駅「ビュー福島潟」 事務局長
	長谷川 徳昭	東区自治協議会 委員
	服部 敬	下山地区コミュニティ協議会 環境・衛生部会長
	山中 知彦	新潟県立大学国際経済学部 教授
アドバイザー	浅野 涼太	日本野鳥の会新潟県 会員（野鳥）
	井上 信夫	生物多様性保全ネットワーク新潟事務局（魚類）
	澤口 晋一	新潟国際情報大学国際学部 教授（自然地理学）
	高橋 郁丸	新潟県民俗学会 理事（民俗学）

【じゅんさい池みらい会議の開催経過】

回	日時	内容等
1	令和2年7月29日	プロジェクト概要、検討の進め方について等
2	令和2年11月18日	じゅんさい池の現状について （現地学習会及びアドバイザー講話）
3	令和3年3月21日	プロジェクトの基本的な考え方について、 方向性の検討に向け魅力と課題の整理
4	令和3年7月12日	基本的な考え方と方向性について 各課題への取り組み方針について
5	令和3年10月21日	じゅんさい池みらいプラン骨子案について
6	令和4年1月8日	じゅんさい池みらいプラン素案について
7	令和4年 月 日	



じゅんさい池みらいプラン

新潟市東区役所

【問い合わせ先】

地域課 企画・地域振興グループ

〒950-8709

新潟市東区下木戸1-4-1

電話：025-250-2110

FAX：025-271-8131

Eメール：chiiki.e@city.niigata.lg.jp

令和4年 月発行